



1 貧困をなくそう



3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



5 ジェンダー平等を実現しよう



11 住み続けられるまちづくりを



17 パートナーシップで目標を達成しよう

共通教養科目「吹田市との連携プロジェクト」



DATA

■ 主な連携先・メンバー

吹田市生活福祉室・環境政策室・男女共同参画センター・文化スポーツ推進室・計画調整室／受講生(2018年度：19名、2019年度：17名)

■ 活動地域

大阪府吹田市／関西大学千里山キャンパス

■ 活動期間

2018年度～継続中

■ 活動資金

なし

活動の目的

- 1 吹田市が抱えている課題の多面的な背景について理解すること
- 2 問題解決にあたり、異なる考え方を持つグループメンバーと積極的なディスカッションを通じ、最適解を見出すこと

連携にいたる経緯

本学の共通教養科目では、専門教育の基礎を修めた3年次以上の学部学生が学際的なテーマに取り組むPBL型科目を開設している。企業や自治体との連携で実際に社会が抱える現実の課題に取り組む本科目の連携先として「吹田市」の協力を得たものである。

活動内容

本授業では、吹田市と連携し、学部横断型のプロジェクト学習を行った。講義形式で開講されている「吹田市と関西大学」の継続的な授業であり、実際に吹田市が抱えている課題を、異なる専門性を持つ学生らの協働的な視点で解決することを試みるものである。公務員志望の学生にとっては、行政管理という職務内容にイメージが湧きやすく、キャリア教育の一環としても位置付けられる。2018年度は生活福祉室、環境政策室、男女共同参画センター、2019年度は文化スポーツ推進室、計画調整室と連携し、現実にある課題に取り組んだ。

吹田市役所職員の方々に大学まで足を運んでいただき、学生へ直接講義を行っていただく機会や、学生が吹田市周辺を訪れフィールドワークを行う時間も設けられた。また、課題解決に向けて3・4名ずつの学生でグループワークを行い、その集大成として、吹田市役所にて職員の方々へプレゼンテーションを行った。職員の方々にはプレゼンテーションをルーブリック評価していただき、学生たちは直接、講評をいただくこともできた。



活動の成果

- 1 各部署の課題解決に関して、学生が吹田市役所職員の方々へ直接プレゼンテーションを行うことができた
- 2 学生たちから、「知識以外にも、プレゼンテーションなど様々な能力が身についた気がする」といった、実感の声を聞くことができた
- 3 吹田市役所職員の方々からは、「実現可能なアイデアもあり、行政として参考にしたい」「学生が疑問に思っていることを知ることができ、とても有意義だった」などのコメントをいただけた
- 4 社会との連携は重要であるが、その機会を持てない学生が多い中、教養教育における本授業ではそのきっかけを作ることができた

今後の課題・目標

- 1 吹田市職員の方々に学生たちの学習状況について知っていただく機会が最終プレゼンテーションまで無かつたが、中間発表の様子も見学いただくなど、交流の機会を増やすよう考えていく
- 2 吹田市役所職員の方々から、積極的に連携事業を進めていきたいという声もあり、引き続き吹田市との情報共有を行い、今後の授業連携に向け、改善案等を協働で検討していく

教員紹介



■ 教育推進部 教授

東京都出身。専門は人の学びのプロセスや構造を明らかにする学習研究。授業内容の専門家とともに、最新の教育方法を用いて学生の学びをコーディネートしている。

森朋子

Tomoko Mori

※2020年3月末付退職